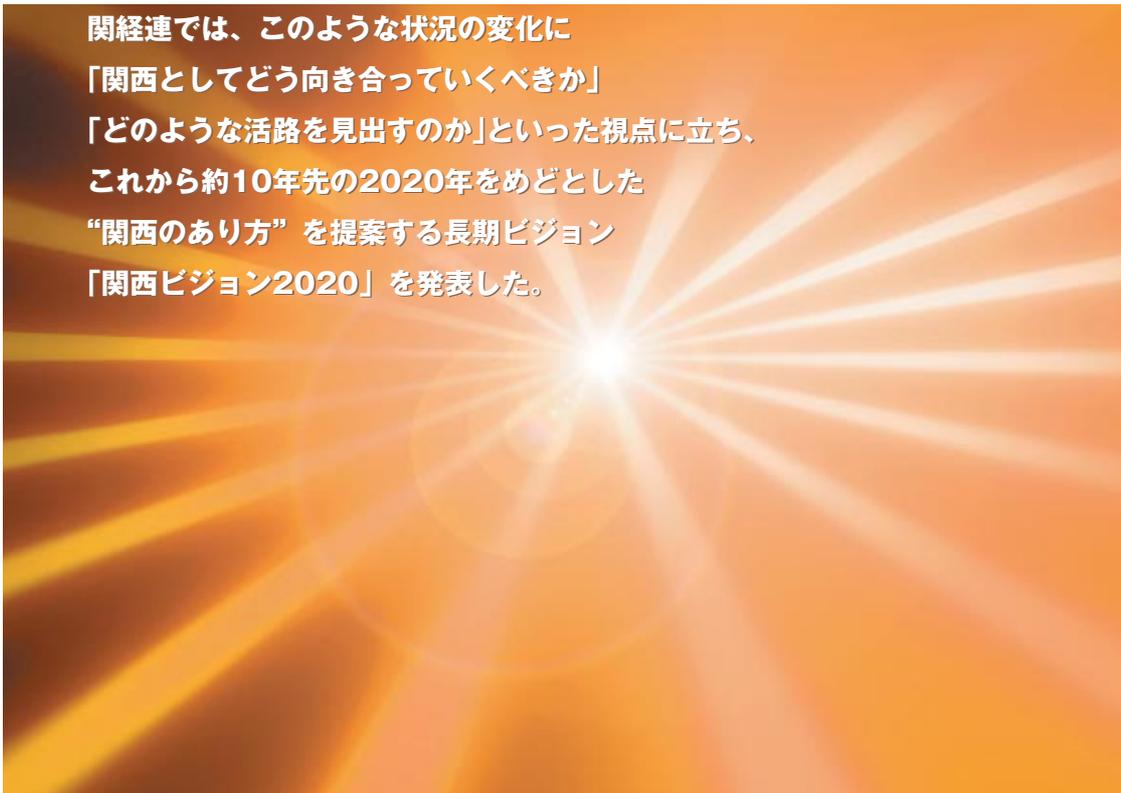


関西、おもしろい！ —「関西ビジョン2020」発表—

熾烈を極める経済のグローバル化、進む人口減少・少子高齢社会、
強い行動が求められる環境対策…

我々の経済活動を取り巻く背景は大きな変化の途上にある。

関経連では、このような状況の変化に
「関西としてどう向き合っていくべきか」
「どのような活路を見出すのか」といった視点に立ち、
これから約10年先の2020年をめどとした
“関西のあり方”を提案する長期ビジョン
「関西ビジョン2020」を発表した。



時代の転換期にある関西経済

バブル経済崩壊後、日本経済は極めて厳しい状況にあった。その後、各企業の不断の努力に加え、アジア諸国の経済成長が大ききけん引力となり、日本経済、そして特に低落傾向が強かった関西経済は回復を遂げることができた。

しかし今、世界および日本経済は危機的状況に直面している。米国に端を発した世界金融不安は1929年の世界恐慌以来の事態との見方もあり、グローバルな経済社会構造が大きく変動する可能性がある。

関西にフォーカスすると、全国を上回るスピードで進むと予測されている少子高齢化・人口減少、人材や企業の本社機能の流出、悪化する地方

自治体の財政など、関西がグローバルな地域間競争の中で持続的に発展していくために向き合わなければならない課題は多い。

しかし、日本・関西が世界で果たすべき役割は決して小さくない。新たな技術革新や、既存の経済社会システムからの変革を求める声は各方面から高まっており、自らの強みを再認識して主体的に行動を起こすことができれば、社会全体に広がる閉塞感に光を射し、世界をリードできる可能性を十分に持ち合わせていると言える。

関西経済の特性と産業競争力

そこで、今後約10年間を見すえた際に、押さえておかなければならない関西経済・産業競争力の

主なポイントは以下の3点であると考えられる。

①他地域よりは早い人口減少・少子高齢化

都市や消費の構造変化などの動きは足下ですすでに本格的に始まっている。人口減少によりマーケット自体は縮小傾向にあるとはいえ(表)、依然大きな規模を有している。また一方で、少子高齢化対策の先進事例を生み出したり、量より質を重視した生活空間を創出できる可能性がある。

②独創的な技術を持つ中小企業・研究開発拠点の集積

関西には独自の技術力を持った中小企業群や、次世代産業を担う研究開発拠点(クラスター・大

学等)の集積が進んでいる(図1)。

③強いアジアとの結びつき

古代より貿易はもちろんのこと、観光・文化交流など多様な面で関西は「アジア」との強力な結びつきを持っている。今後も高い経済成長が見込まれるアジアとのパートナーシップは関西の持つ強みとして重要な要素となる。

関西のありたき未来をデザインする

関経連は昨年公表した活動の中期指針(100日タスク)において、「強い産業の実現」「アジアとの共生」「地域の自立—関西はひとつ」という3つの重点を示し、関西の進むべき未来像をデザインして具体的な戦略を提案することを表明した。10月に発表した「関西ビジョン2020」はその検討結果である。

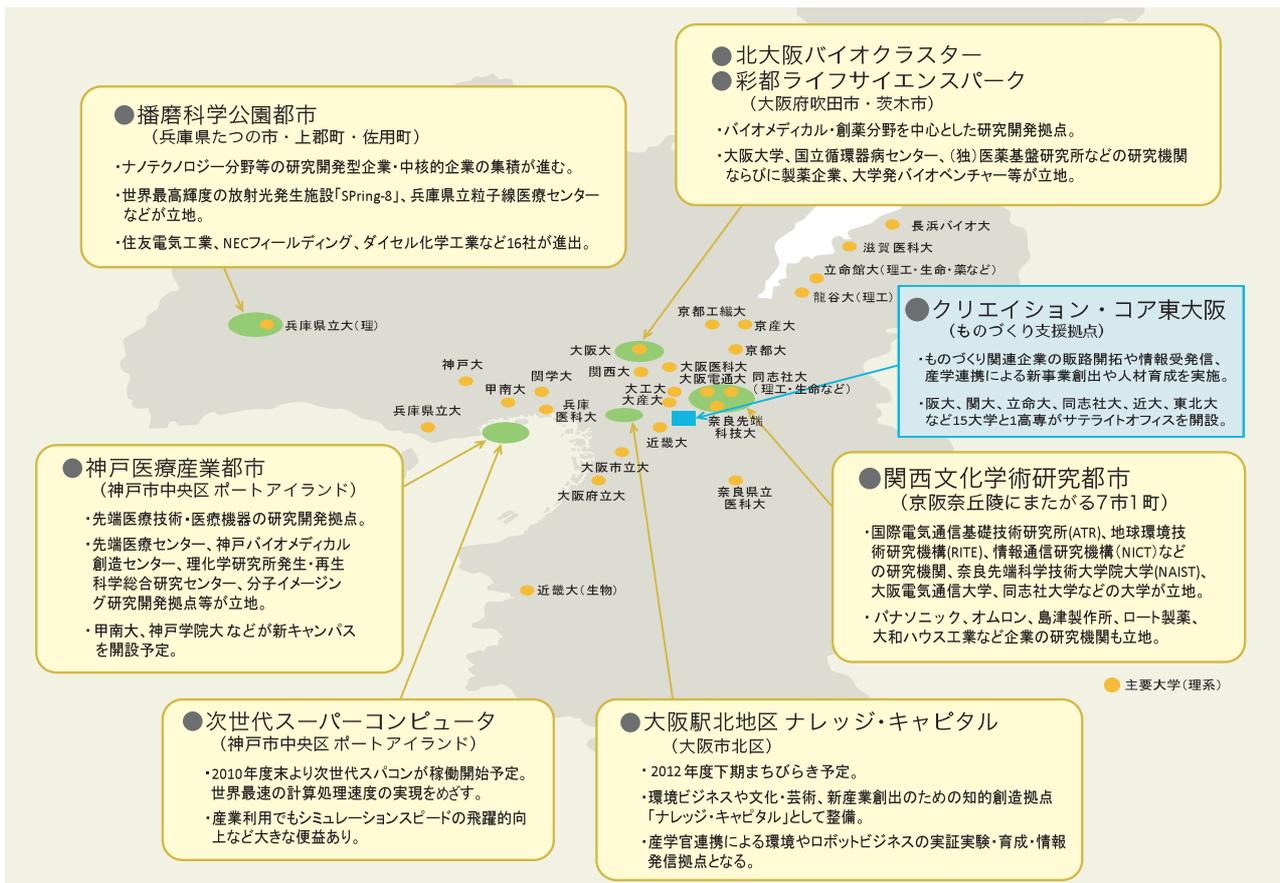
本ビジョンでは、今から概ね10年先となる2020年に向けて、関西の「ありたき姿(ありたい姿+あるべき姿)」とそれを実現していくための取り組みを提案している。

〈表 全国よりはやく進む関西の人口減少〉

	日本	関西	中部	関東
2005年 人口 (高齢化率)	12,777万人 (20.2%)	2,171万人 (19.5%)	1,722万人 (19.7%)	4,238万人 (17.9%)
2025年 人口 (高齢化率)	11,927万人 (30.5%)	1,970万人 (30.4%)	1,624万人 (29.1%)	4,236万人 (27.9%)
人口増減数	▲850万人	▲201万人	▲98万人	▲2万人
人口減少が始まる年	2005年	2004年	2015年	2015年

(関西社会経済研究所「2007関西経済白書」より作成)

〈図1 関西における主な研究開発拠点〉



関西は「突破力」で世界・日本を変える！ ～「関西ビジョン2020」のポイント～

2020年までの世界は「チャンス」と「リスク」が同時発生する時代になると考えられる。新興国の急速な経済成長やボーダレス化の進展による世界経済全体の成長という「チャンス」が期待できる一方で、その流れが地球温暖化、資源・エネルギー・食糧問題などの成長を制約する「リスク」をより顕在化させている。また、現下の米国サブプライムローン問題から発生した世界規模の金融危機に見られるように、一国の経済危機が瞬時に世界に影響する経済構造が生じていることも「リスク」の一端を表している。

このような世界にあって、関西は自らの発展のみに関心を持つのではなく、世界や日本にどう貢献するかといった、高い理想に基づく大きな目標を掲げるべきである。そして、自らの変革に着手し、世界

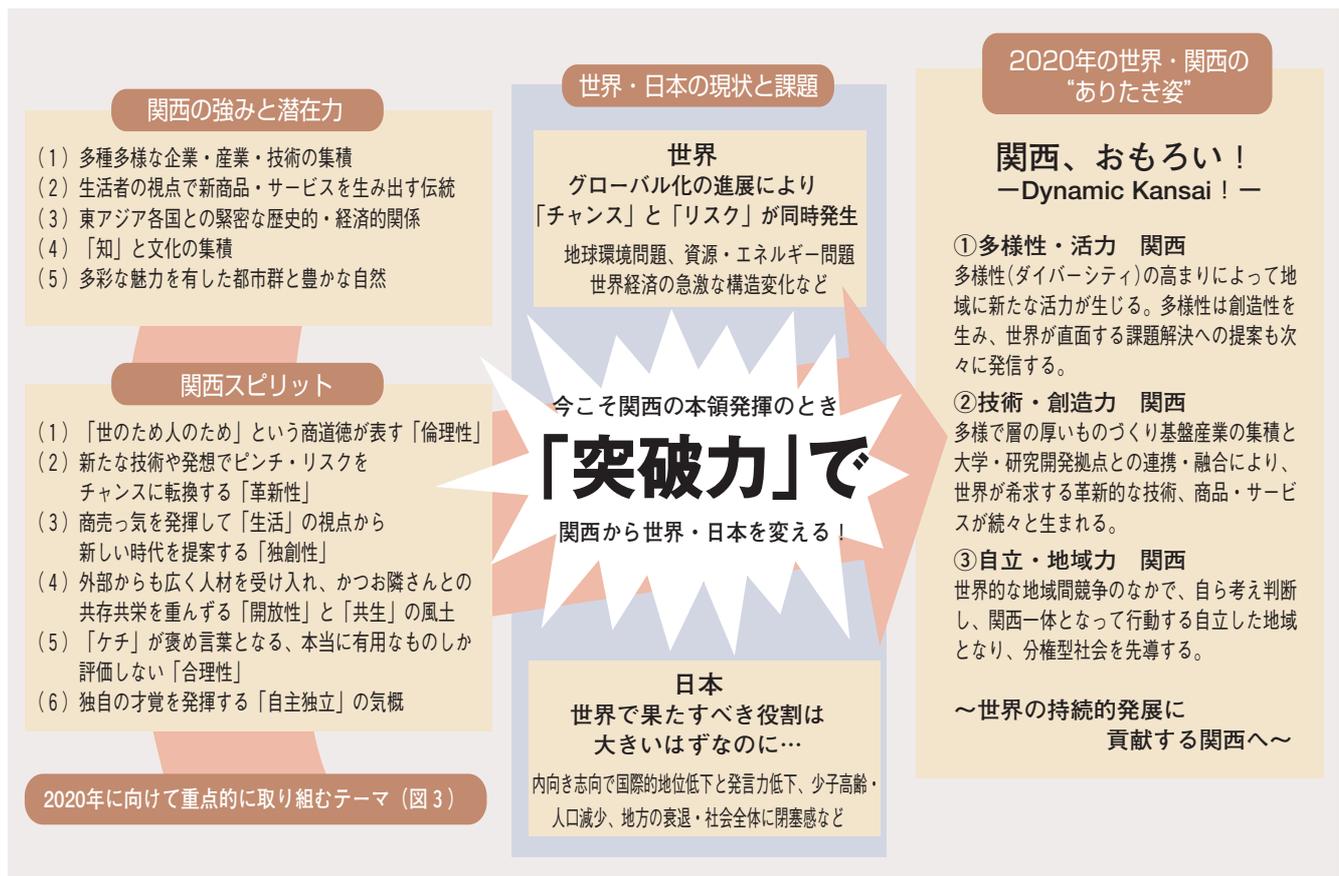
の持続的発展に寄与する取り組みを行うとともに、世界から人・企業・知を集め、自らも発展する好循環の形成をめざさなければならない。

「関西、おもしろい！—Dynamic Kansai!—」 ～2020年の「ありたき姿」

そこで、関経連は2020年の関西の「ありたき姿」を「関西、おもしろい！—Dynamic Kansai!—」と表現(図2)。世界・日本を変える「突破力」を発揮し、「関西、おもしろい！」と言われる地域をめざす。

具体的には、①アジアでも有数の「多様性・活力」に満ちた関西、②最先端の「技術・創造力」で世界をリードする関西、③「自立・地域力」アップでわ

〈図2 関西ビジョン2020俯瞰図〉



が国の変革を先導する関西、を「ありたき姿」としてその実現に取り組む。そして、2020年には、国の内外からさまざまな人々や企業が集まり、今まで以上に多様性(ダイバーシティ)があり活力に満ち、世界の持続的発展に貢献する課題設定・解決力を持ち、世界の人々の生活を面白く豊かにする製品・サービス等を生み出し続けるような地域となることをめざす。

今後取り組むべき重点テーマ

関西が今後「突破力」を発揮し、「ありたき姿」を実現していくために重点的に取り組むテーマとして次の5つを掲げた(図3)。

■「環境・エネルギー革命」で世界を大転換！

関西には優れた環境技術を有する企業や研究機関が数多く集積している。そこで、新エネルギーや次世代環境技術の開発、環境ビジネスの振興、環境に配慮した新たなライフスタイルなどを統合した環境保全モデルの実現・普及をめざす。

■「くらしを“面白く・豊かにする”ビジネス」

「観光」でアジア・世界をリード！

「情報家電」「食」「コンテンツ」「観光」「医療」など関西の強みである暮らしに関わる「技術力・ビジネス力」を育成強化し、関西の魅力を世界に浸透させ、人々のくらしを面白くすることをめざす。

■「K I S P」強化でアジア・世界の「ものづくり拠点」に！

関西には、①複数の大手アセンブラ企業を取引先に持つ、②業種細分類で国内トップクラス、③中核的製品に部品・技術・素材等を提供するなど、電機・機械・化学などの産業分野において、特徴ある独立系の中堅企業群が存在している。こうした企業群を「K I S P (Kansai Independent Supply Partner)」と名付け、K I S P と国内外の企業との連携・融合を促進する。

■「知識と知恵」の一大集積・創出拠点に！

アジア太平洋研究所構想はじめ大阪駅北地区のナレッジ・キャピタルを関西の知の集積の拠点とし、各地のリサーチパークと有機的連携をはかる。さらに、世界中から「知」を集める地域にふさわしい、多様性(ダイバーシティ)に対応した社会の実現をめざす。

■道州制の実現で分権型社会を構築！

世界的な地域間競争の中で、魅力と競争力を備えた存在感ある地域として発展するために、府県域を超える広域圏での地域経営力を向上させ、効果的な地域戦略の実行が可能となるよう関西広域連合の機能の拡大をはかる。

関経連が果たしていく役割

本ビジョンは、関西内外の企業、政府・自治体、大学・研究機関、NPOなど、多くの主体の理解、協力を得なければ実現できない。当会は、関係する主体に働きかけるとともに、①“ありたき姿”の実現に向けた「先導役」、②アクション実行の「コーディネーター役」、③新たな課題設定やシステム変革を迫る「調査研究・政策提言役」を担いたい。
(新・関西ビジョン研究会事務局 壺井秀一(産業部)・土屋由利子(総務企画部))

※「関西ビジョン2020」の全文は、関経連ホームページに掲載。

〈図3 2020年に向けた重点テーマとアクションプラン〉

(1) 「環境・エネルギー革命」で世界を大転換！

→新エネ、省エネ、原子力で「低炭素化社会」を先導

- (1) 新エネルギーの開発・普及や環境ビジネス拡大に向けた取り組み強化
- (2) アジア諸国に対する環境技術の提案と環境に関する人材育成支援
- (3) スタイリッシュ・エコライフの提案—関西共通エコポイントの取り組み—

(2) 「くらしを“面白く・豊かにする”ビジネス」、「観光」でアジア・世界をリード！

→「情報家電」「食」「コンテンツ」「観光」「スポーツ」「医療」などで、世界の人々のくらしを“面白く”する

- (1) 「食と農」に“こだわる”関西から食文化を世界に発信
- (2) 関西を世界No.1の先端・高度医療拠点に
- (3) 演出力ある関西を育てる～関西を魅力的にプロデュースし世界に楽しさ・感動を提供～

(3) 「KISP(注)」強化でアジア・世界の「ものづくり拠点」に！

→技術力ある中堅企業群を強化し、関西をアジア・世界のものづくりを支える地域に

- (1) 技術力ある中堅企業群(KISP)の強化・集積
 - (2) 「21世紀関西版ポート・オーソリティ構想」の実現
- (注) KISP (Kansai Independent Supply Partner)：関西における技術力を有した独立系の中堅企業。

(4) 「知識と知恵」の一大集積・創出拠点に！

→世界中の企業・大学の「連携・融合」で、これから生じる世界的課題にも解決を提案

- (1) 「知」の再集積・ネットワーク形成
- (2) 「アジアNo.1さらに世界No.1住みやすい地域・関西」の形成に向けた、都市・住環境の整備
- (3) 「エンタープライズ・関西(仮称)」の設置

(5) 道州制の実現で分権型社会を構築！

→道州制の実現で、国際的に魅力と競争力ある地域に

関西ビジョン2020 ——「突破力」に込めたメッセージ

「突破力」をキーワードに、2020年関西の「ありたき姿」を「関西、おもしろい!」と打ち出した、関西ビジョン2020。この新しい切り口のビジョンを提案したのは、これまでの関経連にはない、若手メンバーを中心とする新・関西ビジョン研究会だった。研究会での議論やビジョンに対する思いなどを策定にかかわったメンバーに聞いた。



吉田 和男

新・関西ビジョン研究会座長

(京都大学大学院経営管理研究部教授)



柴田 有三

新・関西ビジョン研究会メンバー

(NPO法人KGC (Knowledge Gathering & Connection)理事長)



奥田 真弥

関西経済連合会専務理事

若手メンバーを中心に検討したことで “新しい切り口”のビジョンが完成

——中堅・若手の有識者や会員企業スタッフを中心とした「新・関西ビジョン研究会」の印象はいかがでしたか。

吉田：2020年の関西を新しい視点でとらえようとメンバー全員が熱心に議論しました。その結果、「関西ビジョン2020」は新しい切り口のビジョンになったと思いますね。それが一番の印象です。

柴田：2020年、自分や関西がどうありたいかについて当事者として考え、意見を述べられたことが特

徴的でした。研究会での議論を通じて関西やその他のさまざまな事に対する認識が深まり、今まで自分ができなかった考え方ができるようになりました。他のメンバーも同じような思いを持っていると思います。

奥田：これからの関西を担う若い方々に関西の将来を考えていただき、率直な声を引き出す良い機会となりました。今回の研究会については、事務局も約10年後の関経連を担う若手職員に任せ、議論にも参加させました。研究会を毎回関西らしさが感じられる場所で開催するなど、議論の進め方だけではなく研究会の運営にも工夫をしていましたね。

キーワードは「突破力」— 世界に対する関西のオリジナリティーを追求

—「関西ビジョン2020」にはどのような思いをもっておられますか。

吉田：「関西ビジョン2020」のキーワードは「突破力」。関西の地盤沈下が言われて久しく、今後も日本経済や関西を取り巻く状況が決して安泰ではないなか、関西はもはや対東京ではなく、世界の中でどうするのかという視点を持ち、その潜在能力を生かして「突破力」を発揮しなければならないという、強いメッセージを込めています。

奥田：確かに「突破力」は非常に新しい切り口です。東京に対抗して関西はどうするのか、という視点が多かったこれまでのいろいろなビジョンと違い、「関西ビジョン2020」ではアジアや世界との関係で関西が果たす役割を「突破力」という言葉で鮮明に打ち出しています。また、“関西はこうなりたい”という一方的な思いだけでなく、“関西は世界からこんな風に評価されたい、こんな姿に見られたい”という思いも非常にはっきりと出た、新しい視点で作られたビジョンだと思います。

柴田：“これからの世界に対して新しい価値を提示できる関西のオリジナリティーは何か”と研究会メンバーで追求した結果、自然に「突破力」や「関西スピリット」という言葉が出てきましたね。そういう意味でも今回のビジョンはとても動的なものになっていると思います。2020年を見すえた時に、私自身このビジョンに基づいて活動したいと思うほど愛着が出てきました。

—実は、「突破力」についてはわかりにくいという声もあるようですが。

吉田：“「突破力」とは何か”と構成要素を分解しても「突破力」は理解できません。全体として把握することが必要なんです。関西の現状や2020年にありたき姿、そしてその姿へ向かおうとする「志」—ビジョンではこれを「関西スピリット」と定義しているのですが、そういったものが「突破力」の基盤となり、「関西スピリット」を再構築することで「突破力」が一層強化されるのです。環境問題などさまざまな難しい問題が山積し、グローバ

ル化も求められるなか、将来に対して見通せない部分が多い。それをどのように乗り越えるかを考えた時、関西の潜在力である「関西スピリット」を生かし、「突破力」を発揮して切り抜けて行こうということなんです。この考え方を関西連の会員の方々にもぜひ共有していただきたいですね。

「関西から世界を変える」アクションプランの種は自分たちの足下にあった

—ビジョンでは2020年に向けた5つの「重点テーマ」を取り上げ、アクションプラン案を提示しています。特に注目されているテーマやプランとは。

奥田：今回のビジョンでは、“関西の技術を使って世界の環境やエネルギー問題の解決に貢献できないか”あるいは“関西の潜在力を生かして暮らしを豊かにすることでもっとすばらしい世界にすることはできないか”など「関西から世界を変える」という発想から生まれたアクションプランが盛り込まれています。非常に新しい視点だと思います。研究会メンバーの皆さんには良い視点で考えていただいたと感謝しています。

吉田：私が期待しているのは、中堅企業群(K I S P)の強化・集積です。K I S Pは日本のみならず世界のものづくりを支える企業群ですが、今までこのグループに焦点を当てた議論は行われていません。K I S Pをきちんと位置づけ、その企業群の強化に関経連が積極的に取り組めばおもしろい変化が起こるのではないのでしょうか。

もう一つあげると「演出力ある関西を育てる」ですね。“いい暮らし”とは物質的に贅沢な暮らしをすることではなく、文化的な暮らしをすることだという意識が高まっています。今まで生活や仕事とは違う次元のものと考えられがちだった「文化」を生活や仕事を演出する中核として着目したのはいいと思いますね。関西は京都・神戸・大阪など各地域がすでに独自の文化を持っていますから、必要なのはそれをプロデュースする人や組織が出てくることですね。

柴田：「関西ビジョン2020」は先に述べたとおり動的なビジョンです。とすると、ビジョンの実現に当たって我々は“行動し続ける”だけでなく“考え



続ける” が必要です。その点からしても、「知の再集積・ネットワーク形成」は不可欠だと思います。関経連がこのような提案をすることで、大学をはじめとする「知の機能」が考えることの重要性を再認識してくれるのではないかと思います。

できあがったビジョンをあらためて読んでみると、関西は地盤沈下していて危ないと言っている割に余裕があるなと気づくんです。研究会の議論を通じて感じたのですが、関西が他地域よりも突出しているものを抜き取ってきて、それで世界一をめざそうという安易な発想では関西が良くならないことはこれまでの事例からも明らかです。そうではなく、関西の豊かな文化や生活など、もう一度自分たちの足下をしっかりと見て、地道な取り組みを続け、それを表現していけば、アジアや世界に貢献することは案外簡単なのかもしれない。このビジョンに従えば、無理なく楽しみながら取り組んでも2020年の「ありたき姿」は実現できるのではないかという気がしています。

ビジョンを関西地域に浸透させることで 2020年の「ありたき姿」を現実のものに

—今後の取り組みについてはどのように考えておられますか。また、関経連に期待されることは。

奥田：ビジョンは単なる文章であっては意味がありません。実現に向けて進めることが重要です。アクションプランにしても、ゼロからのスタートで実現

に相当な力が必要なものもあれば、すでに関経連で取り組みを始めているものもあり、その熟度はまちまちです。事務局で全体のフォローアップをしっかりとするとともに、進捗状況を定期的にチェックする予定です。

また、ビジョンでは多様性の必要性をかなり打ち出しています。関西の多様性を深めるため、手始めに外国人の方々が関西をどう思っているのかを調査してはどうかといったご提案も研究会からいただいていますので、こういった我々の認識を深めるような取り組みも進め、必要があれば新しいアクションプランの追加も行いたいと考えています。2020年、関西の多様性が深まり、今はまだ世界的に認知されているとは言い難い「関西」という言葉が世界中で当たり前のように使われるブランド力のある言葉となり、“関西に住んで仕事をしたい、勉強したい、関西へ行ってみたい”と世界の人々から思われる地域に関西がなればと心から思います。

柴田：ビジョンにこだわればこだわるほど、つまり「関西とは何か」「関西は世界に対して何ができるのか」と自分たちに問いかけることで、我々は世界の人々とは違ったもの見方ができるのではないのでしょうか。その問いかけを今後も続けて行き、アクションプランなどにフィードバックすればビジョンの実現も早まるでしょう。しかし、注意しなければならないのは、アクションプランの推進に一生懸命になりすぎて、大本のビジョンを忘れがちになることで

す。ビジョンにはこだわってほしい。最初は大変だと思えますが、アクションプランを通じて「関西ビジョン2020」を貫く哲学を伝えようと努力し続けられれば、世界は関西についてくると思います。

例えば、「関西スピリット」を持っていない経営者は恥ずかしい」というような風潮が生まれてくるとすごいですよね。

吉田：関西のビジネスパーソンにこのビジョンが浸透してひとつの流れができれば、それが大きな力になっていきます。そのような流れが起きるよう、関経連にはフォローアップを続けていただきたいです

ね。やはり地域というのは非常に重要で、地域にこだわることこそが、その地域が世界の中で発展していくパワーとなるのです。地域にこだわりつつも世界の多様性を受け入れ、独自の文化を中心に発展する—これが世界に通用する、2020年にめざすべき関西の姿でしょう。その姿を現実のものとするよう、関西の企業やそこで働くビジネスパーソンが関西にこだわりつつ世界に目を向けていく、その接着剤の役割に関経連には期待したいですね。

(座談会司会／新・関西ビジョン事務局 徳田龍裕(国際部)・文／同事務局 岡田真紀(秘書広報部))

Profile

吉田和男 (よしだ かずお)

1948年生まれ。71年京都大学経済学部卒業後、大蔵省入省。銀行局、主計局等勤務の後、大阪大学経済学部助教授、京都大学経済学部・経済学研究科教授を経て現職。

経済学博士・工学博士。

関西ベンチャー学会会長、財政制度等審議会臨時委員など幅広く活躍。

柴田有三 (しばた ゆうぞう)

1977年生まれ。2001年京都大学農学部卒業、03年同大学院情報学研究科修士課程修了。

同年にNPO法人KGC理事長就任。その後、京都大学国際イノベーション機構コーディネーター、同志社大学工学部嘱託講師、九州大学ユーザーサイエンス機構アドバイザー等を歴任。06年全国の産業振興で最も活躍する33名に産学連携分野で選出(経済産業省)。

「関西ビジョン2020」誕生までの軌跡

新・関西ビジョン研究会会合開催実績

研究会

- 第1回 5月22日(木) 於：関経連会議室
- 第2回 7月23日(水) 於：綿業会館
- 第3回 9月18日(木) 於：大阪倶楽部

懇談会

- 第1回 7月17日(木) ローマクラブ 難波菊次郎氏との懇談
- 第2回 8月19日(火) (株)クリップ代表取締役CEO 島田昭彦氏、
ロボ・ガレージ代表 高橋智隆氏との懇談

*この他、事務局による各界の有識者との意見交換、
関西2府7県へのヒアリングなどを実施。



第1回



第2回



第3回



記者発表(10月7日)